

# 「親の意識調査」アンケート

## 報告書

第1弾（母親編・父親編）

2002年9月

浜松市政向上委員会

この調査は、浜松市政向上委員会に交付された政務調査費で行われました。

# 目次

はじめに

## <母親編>

調査概要

回答者の属性

新学習指導要領、週5日制について（アンケート調査母親編）

母親の考え方について

アンケート自由解答欄 キーワード別分類

学校に期待していること

子どもの将来についての母親の考え方について

子どもの学校や、教育について気になること、不安に思うこと

## 追加調査

追加調査概要

要約

まとめ

## <父親編>

調査概要

回答者の属性

新学習指導要領、週5日制について（アンケート調査父親編）

父親の考え方について

父親アンケート結果から

事例報告

引佐小 ひまわり学級

可美小 多目的ルーム

添付資料 「親の意識調査」アンケート用紙（母親用・父親用）

はじめに

文部科学省は 2001 年を「教育新生元年」と呼び、「学校が良くなる、教育が変わる」と銘打って「21 世紀教育新生プラン」を打ち出していました。また、2002 年 4 月から学校完全 5 日制が実施され、それに伴い改訂された新学習指導要領にもとづき、学校をはじめ、子どもを取り巻く環境が大きく変わりました。あちらこちらで教育問題について語られていますが、そこには実際に子どもを育てている親や家庭が抱えている不安、戸惑い、悩みなどが表にでることはほとんどありません。

そこで、小中学校に通う子どもたちの親たちや専門家が連携して、当事者の立場から子どもの教育や学校、家庭について考えようという「おやおやプロジェクト」が発足しました。浜松市政向上委員会は、「おやおやプロジェクト」の活動の政策提案に関して、協働しています。

まずは、子どもたちの親や家庭の様々な現状を知るために調査する必要があると考え、小中学校の約 600 人の父母にアンケートを実施しました。調査企画&集計にあたりましては、アクション・シニア・タンク（特定非営利法人申請中）に委託をしました。

この報告書は、父母たちへのアンケートをまとめた第 1 弾です。このアンケートの結果は、親のエンパワーメントのための支援を調査・研究する基礎的データにすると同時に、浜松市政向上委員会の政策提案につなげるための資料としていきます。また調査を実施するだけでなく、おやおやプロジェクトのメンバーと、情報交換や意見交換を行ってきましたので、今後はさらに分析を進め、具体的な活動と政策提案をしていきたいと考えています。

父母たちの小さなつづやきをまとめたこの報告書が、より充実した子どもたちの環境整備に大きな力を発揮することになるよう、努めていきたいと思えます。

最後になりましたがアンケートにご協力いただいた皆さま、他関係機関の方々に心からお礼申し上げます。

2002年10月25日

浜松市政向上委員会  
鈴木 恵

# 「親の意識調査」アンケート

報告書（母親編）

2002年9月

# 調査概要

1. 調査名称：「親の意識調査」

2. 調査目的：

4月から学校完全週5日制、新学習指導要領など子どもをとりまく環境が大きく変わり、あちらこちらで教育問題について語られているが、そこには実際に子どもを育てている親や家庭が抱えている不安、戸惑い、悩みなどが表に出ることはほとんどない。そこで、小中学校に通う子どもたちの親や家庭の様々な現状を知り、親のエンパワーメントのための支援と浜松市政向上委員会の政策提案につなげるための資料とする。

3. 調査対象：浜松市内とその近郊に住み、第一子が小学生または中学生を持つ母親600人

4. 調査期間：平成14年7月1日～平成14年7月30日

5. 調査方法：

アンケート配布の取りまとめ者による個人宛て配布および回収によるアンケート調査

6. 回答者数：439人（回収率73.2%）

有効回答者数 432人（72.0%） 無効数 7人

# 「親の意識調査」アンケート <母親編>

総回答数 432

回答者の属性

年代	合計	働いているか?			同居家族						
		働いて いる	働いてい ない	無回答	夫	夫の父	夫の母	自分の父	自分の母	その他	未記入
20代	19	14	4	1	15	4	5	1	3	3	1
30代	318	158	153	7	287	43	58	18	25	8	18
40代	94	53	37	4	84	14	17	6	5	4	7
50代	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
60代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	432	225	195	12	387	61	80	25	33	15	26

回答者の居住地（多い順）

和合町	30	金折町	3	西町	1
富塚町	23	葵西	3	西浅田	1
大瀬町	18	蛸塚	2	神立町	1
佐鳴台	18	楊子町	2	神田町	1
本郷町	12	尾張町	2	森田町	1
高丘町	12	白羽町	2	植松町	1
竜禅寺町	11	馬郡町	2	小豆餅	1
高塚町	11	南浅田町	2	小池町	1
宮竹町	11	都田町	2	助信町	1
有玉南町	10	中島町	2	十軒町	1
大平台	9	中田島町	2	若林北町	1
増楽町	9	早出町	2	篠ヶ瀬町	1
西伊場町	9	浅田町	2	志都呂町	1
鹿谷町	9	泉	2	市野町	1
幸	9	西山町	2	山手町	1
上島	8	神原町	2	三方原町	1
若林町	7	神ヶ谷町	2	材木町	1
有玉台	6	新橋町	2	佐藤	1
東若林町	6	城北	2	根洗町	1
上西町	6	上浅田	2	高林	1
篠原町	6	寺島町	2	向宿	1
海老塚	6	参野町	2	古川町	1
飯田町	5	三和町	2	古人見町	1
頭陀寺町	5	鴨江	2	元魚町	1
新都田	5	曳馬	2	丸塚町	1
初生町	5	和地山町	1	鴨江町	1
住吉町	5	竜光	1	海老塚町	1
高丘東	5	立野町	1	下飯田町	1
広沢	5	有玉	1	恩地町	1
引佐町	5	北島町	1	安松町	1
坪井町	4	法枝町	1		
砂山町	4	八幡町	1		
曳馬町	4	藤枝市	1		
葵東	4	渡瀬町	1		
薬新町	3	中沢町	1		
浜北市	3	大柳町	1		
入野町	3	大島町	1		
鶴見町	3	積志町	1		
大久保町	3	石原町	1		
細江町	3	西伝寺町	1		

第一子の学年	同居家族		
	男	女	
小学1年	98	47	50
小学2年	67	38	29
小学3年	43	23	20
小学4年	47	26	20
小学5年	49	27	21
小学6年	45	21	24
中学1年	24	9	15
中学2年	21	8	12
中学3年	32	18	14

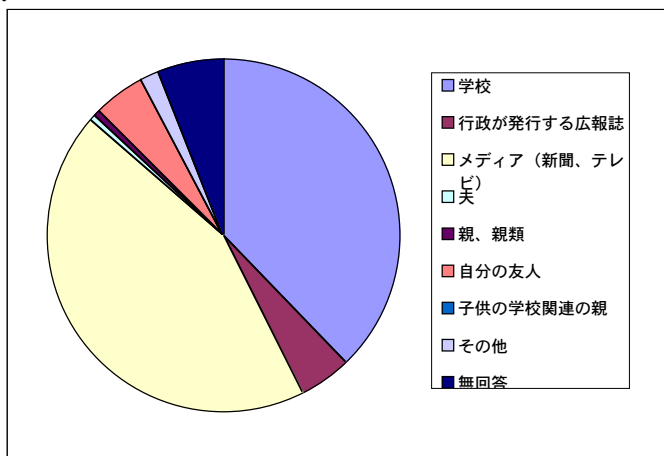
子どもの人数

1	66
2	243
3	107
4	8
5	1

◆新学習指導要領、週5日制についてお伺いします。

1) 主にどこでこれらに関する情報を知りましたか？

	人数	比率
学校	163	37.7%
行政が発行する広報誌	21	4.9%
メディア（新聞、テレビ）	189	43.8%
夫	3	0.7%
親、親類	2	0.5%
自分の友人	20	4.6%
子供の学校関連の親	0	0.0%
その他	7	1.6%
無回答	27	6.3%
	432	100.0%

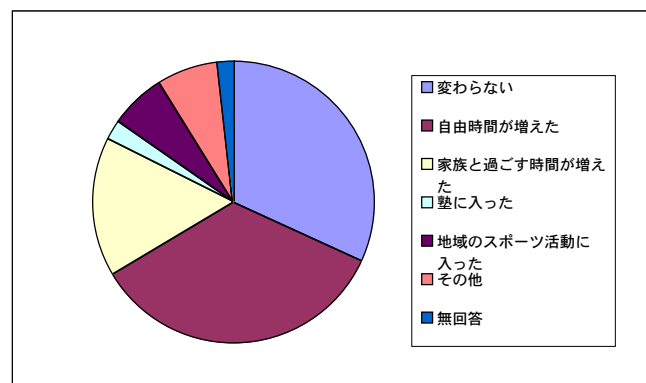


その他の内容

同じマンションの人 塾の保護者会 塾  
雑誌「おそい はやい ひくい たかい」  
バイト先が公文式の教室なので くもん

2) 新学習指導要領、週5日制になって、あなたのお子さんの生活はどのように変わりましたか？

	人数	比率
変わらない	138	31.9%
自由時間が増えた	149	34.5%
家族と過ごす時間が増えた	69	16.0%
塾に入った	10	2.3%
地域のスポーツ活動に入った	28	6.5%
その他	30	6.9%
無回答	8	1.9%
	432	100.0%

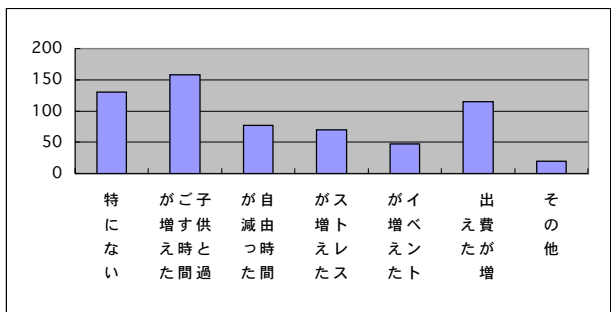


その他の内容

留守番が増えた 忙しくなった 平日の学校生活の時間がふえて余裕なさそうです  
平日に遊ぶ時間がない。宿題が多くて帰りも遅い。5時間授業が4日間あるため  
平日が忙しくなった（宿題増加） 地域ももっ子の会 地域の野外活動に入った  
地域、行政施設での行事参加が増えた 生活時間が乱れる 習い事を始めた  
実家に預けることが増えた 自宅で遊んでいることが多い 市の遊び塾に参加した  
市の音楽活動 今年初めて小学校に入れたのでよくわからない 今年より新一年生なのでわかりません  
合唱団に入った 公民館の講座やイベントに申し込みをして参加するようになった  
午後1時からサッカーの練習なので午前中少し家で勉強させてゆとりをもって昼食を食べて  
練習に行けるようになった。  
月～金が忙しく、土・日はゆとりがある 休みが2日間あるので、家の手伝いを頼む回数が増えました  
暇になった 下の子の少年団活動時間が増えた 一年生の為比較できない わからない  
ゆったりする時間が増えた ソフトボールの練習日が増えて忙しくなった サッカーが増えた  
ウィークデイの自由時間が減った

3) あなたの生活は変わりましたか？(複数回答)

	人数	比率
特にな	130	30.1%
子供と過ごす時間が増えた	158	36.6%
自由時間が減った	77	17.8%
ストレスが増えた	70	16.2%
イベントが増えた	47	10.9%
出費が増えた	115	26.6%
その他	20	4.6%

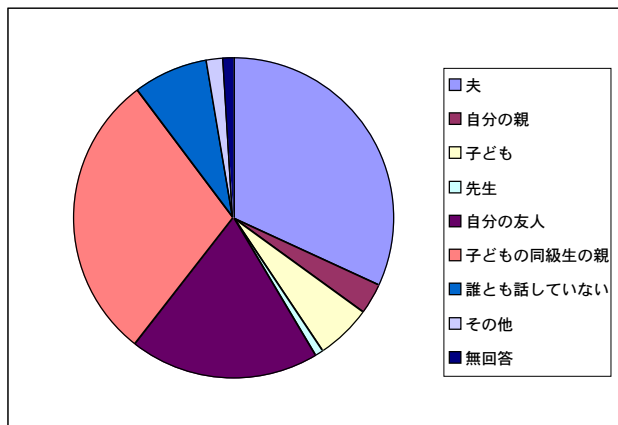


その他の内容

変わらない 土曜日仕事で子供に接して上げられない  
 土曜日、朝寝坊がそろって出来る。金の夜のイライラがなくなった  
 土曜日 休みになったことで、仕事をする時間が減った  
 土曜午前、夫婦だけのホッとする時間がなくなりました  
 土日の朝が楽でストレスが減った  
 祖母に子供を頼まなくてはならなくなった(共働きのため)  
 親は仕事なので友達と遊んでいます。子供のことと仕事と土曜日は大変です。  
 少年団や部活(クラブ)で出かけることが多くなった  
 少年団の活動時間が増えた 子供と接する時間が増えた 仕事を休むことになった  
 仕事を休まなければならなくなった 今年より新一年生なのでわかりません  
 ストレスが減った サッカーばかりになった サッカーの試合が増えた

4) 学習指導要領、週5日制など学校や教育のことについてどなたと最もよくお話になりましたか？

	人数	比率
夫	138	31.9%
自分の親	13	3.0%
子ども	24	5.6%
先生	4	0.9%
自分の友人	82	19.0%
子どもの同級生の親	127	29.4%
誰とも話していない	32	7.4%
その他	7	1.6%
無回答	5	1.2%
	432	100.0%

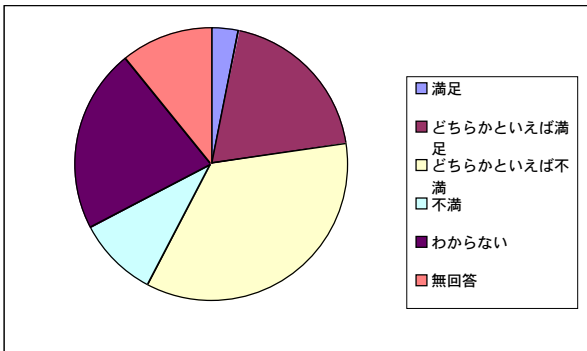


その他の内容

夫の両親 夫の妹(教師) 祖母(夫の母) 祖母 公文の先生 義母

5) 新学習指導要領、週5日制を、親としてどのように評価しますか？

	人数	比率
満足	14	3.2%
どちらかといえば満足	83	19.2%
どちらかといえば不満	152	35.2%
不満	41	9.5%
わからない	95	22.0%
無回答	47	10.9%
	432	100.0%

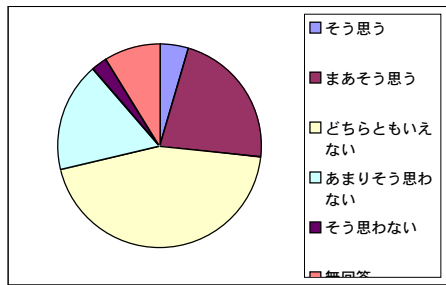




◆あなたの考え方を伺います

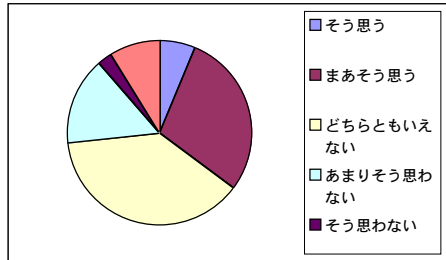
1) 子どもの教育にお金を惜しむべきではない

	人数	比率
そう思う	20	4.6%
まあそう思う	96	22.2%
どちらともいえない	191	44.2%
あまりそう思わない	76	17.6%
そう思わない	11	2.5%
無回答	38	8.8%
	432	100.0%



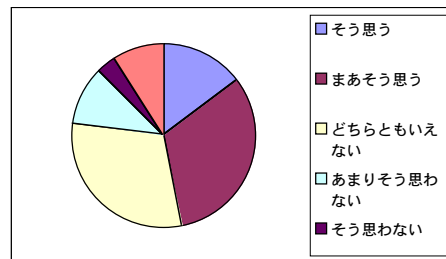
2) 子どもの才能を伸ばすためにはできるだけ多くの教育を受けさせるべきだ

	人数	比率
そう思う	28	6.5%
まあそう思う	124	28.7%
どちらともいえない	164	38.0%
あまりそう思わない	67	15.5%
そう思わない	10	2.3%
無回答	39	9.0%
	432	100.0%



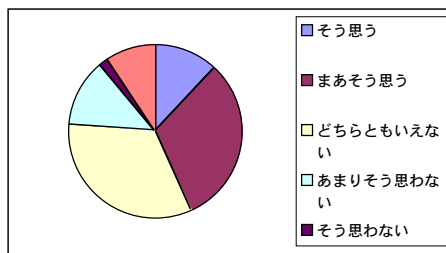
3) 子どもがいても母親はやりたいことをやるべきだ

	人数	比率
そう思う	64	14.8%
まあそう思う	138	31.9%
どちらともいえない	132	30.6%
あまりそう思わない	44	10.2%
そう思わない	14	3.2%
無回答	40	9.3%
	432	100.0%



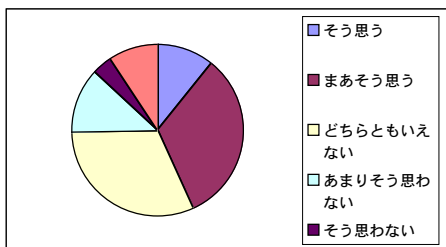
4) まわりの評価を気にせず、子どもは個性的に育てるべきだ

	人数	比率
そう思う	51	11.8%
まあそう思う	135	31.3%
どちらともいえない	144	33.3%
あまりそう思わない	54	12.5%
そう思わない	7	1.6%
無回答	41	9.5%
	432	100.0%



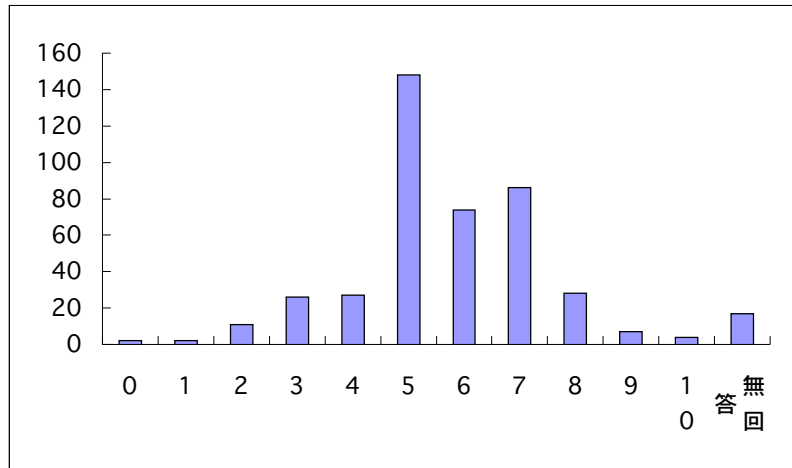
5) 子どもの才能を伸ばすのは親の努力によるところが多い

	人数	比率
そう思う	47	10.9%
まあそう思う	139	32.2%
どちらともいえない	135	31.3%
あまりそう思わない	55	12.7%
そう思わない	15	3.5%
無回答	41	9.5%
	432	100.0%



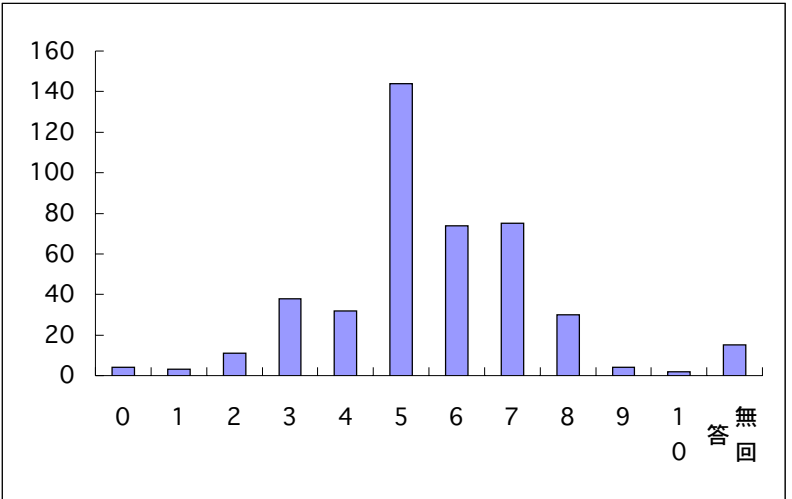
6) あなたは個人として、自分は何点だと思いますか？

	人数	比率
0	2	0.5%
1	2	0.5%
2	11	2.5%
3	26	6.0%
4	27	6.3%
5	148	34.3%
6	74	17.1%
7	86	19.9%
8	28	6.5%
9	7	1.6%
10	4	0.9%
無回答	17	3.9%
	432	100.0%



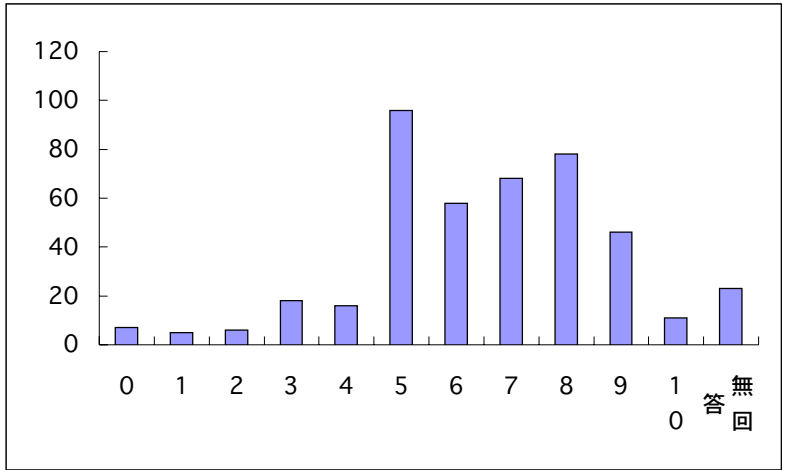
7) あなたは親として何点だと思いますか？

	人数	比率
0	4	0.9%
1	3	0.7%
2	11	2.5%
3	38	8.8%
4	32	7.4%
5	144	33.3%
6	74	17.1%
7	75	17.4%
8	30	6.9%
9	4	0.9%
10	2	0.5%
無回答	15	3.5%
	432	100.0%



8) お子さんの父親（同居の有無にかかわらず）は親として何点だと思いますか？

	人数	比率
0	7	1.6%
1	5	1.2%
2	6	1.4%
3	18	4.2%
4	16	3.7%
5	96	22.2%
6	58	13.4%
7	68	15.7%
8	78	18.1%
9	46	10.6%
10	11	2.5%
無回答	23	5.3%
	432	100.0%



個人の点数と母親としての点数

個人の点数

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	7	2	0	2	0	0	0	0	0
3	0	0	1	16	5	12	2	1	0	1	0
4	0	0	1	1	17	9	3	0	1	0	0
5	0	0	0	5	2	98	14	14	6	2	1
6	0	0	0	0	3	14	41	11	5	0	0
7	0	0	0	1	0	8	11	47	6	2	0
8	0	0	0	0	0	5	3	11	9	1	1
9	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

母親の点数

母親の点数と父親の点数

母親の点数

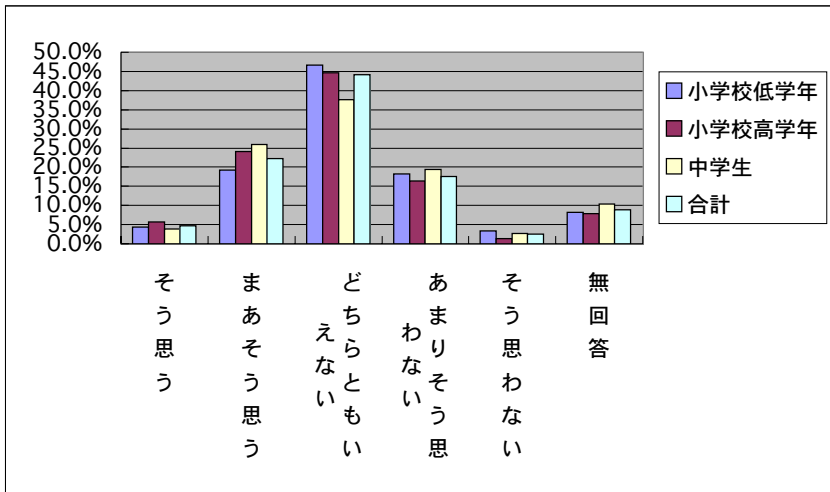
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
0	0	0	2	3	1	0	1	0	0	0	0
1	0	1	0	1	1	0	0	2	0	0	0
2	1	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0
3	1	0	1	6	1	3	2	3	1	0	0
4	0	0	1	1	3	7	1	2	1	0	0
5	0	0	3	6	7	60	7	9	4	0	0
6	1	0	0	4	7	11	28	5	2	0	0
7	0	1	0	10	4	21	8	22	2	0	0
8	1	1	1	5	3	22	16	17	12	0	0
9	0	0	2	1	2	11	8	13	6	2	0
10	0	0	0	0	1	4	2	0	1	1	2

父親の点数

◆あなたの考え方を伺います

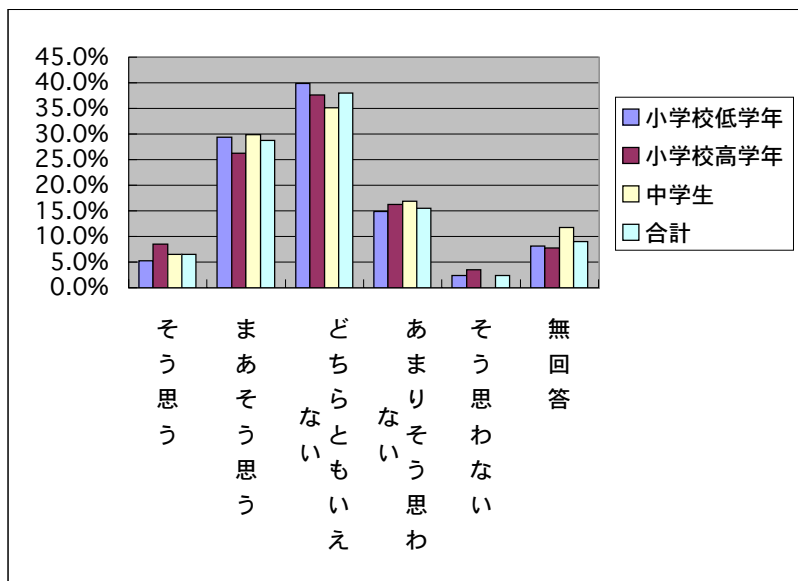
1) 子どもの教育にお金を惜しむべきではない

	小学校低学年		小学校高学年		中学生		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
そう思う	9	4.3%	8	5.7%	3	3.9%	20	4.6%
まあそう思う	40	19.2%	34	24.1%	20	26.0%	96	22.2%
どちらともいえない	97	46.6%	63	44.7%	29	37.7%	191	44.2%
あまりそう思わない	38	18.3%	23	16.3%	15	19.5%	76	17.6%
そう思わない	7	3.4%	2	1.4%	2	2.6%	11	2.5%
無回答	17	8.2%	11	7.8%	8	10.4%	38	8.8%
合計	208	100.0%	141	100.0%	77	100.0%	432	100.0%



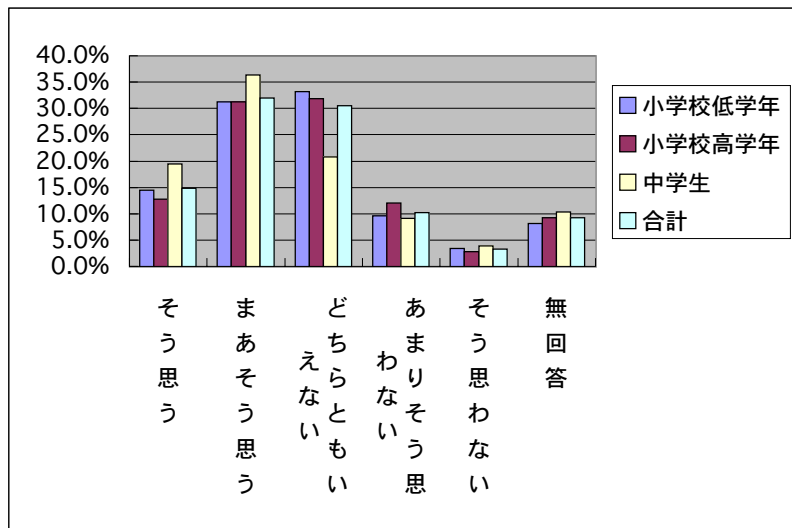
2) 子どもの才能を伸ばすためにはできるだけ多くの教育を受けさせるべきだ

	小学校低学年		小学校高学年		中学生		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
そう思う	11	5.3%	12	8.5%	5	6.5%	28	6.5%
まあそう思う	61	29.3%	37	26.2%	23	29.9%	124	28.7%
どちらともいえない	83	39.9%	53	37.6%	27	35.1%	164	38.0%
あまりそう思わない	31	14.9%	23	16.3%	13	16.9%	67	15.5%
そう思わない	5	2.4%	5	3.5%	0	0.0%	10	2.3%
無回答	17	8.2%	11	7.8%	9	11.7%	39	9.0%
合計	208	100.0%	141	100.0%	77	100.0%	432	100.0%



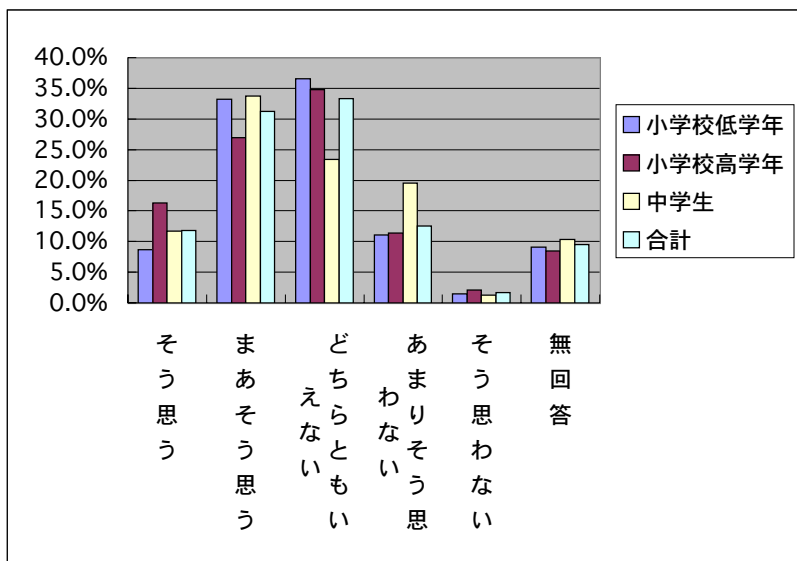
3) 子どもがいても母親はやりたいことをやるべきだ

	小学校低学年		小学校高学年		中学生		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
そう思う	30	14.4%	18	12.8%	15	19.5%	64	14.8%
まあそう思う	65	31.3%	44	31.2%	28	36.4%	138	31.9%
どちらともいえない	69	33.2%	45	31.9%	16	20.8%	132	30.6%
あまりそう思わない	20	9.6%	17	12.1%	7	9.1%	44	10.2%
そう思わない	7	3.4%	4	2.8%	3	3.9%	14	3.2%
無回答	17	8.2%	13	9.2%	8	10.4%	40	9.3%
合計	208	100.0%	141	100.0%	77	100.0%	432	100.0%



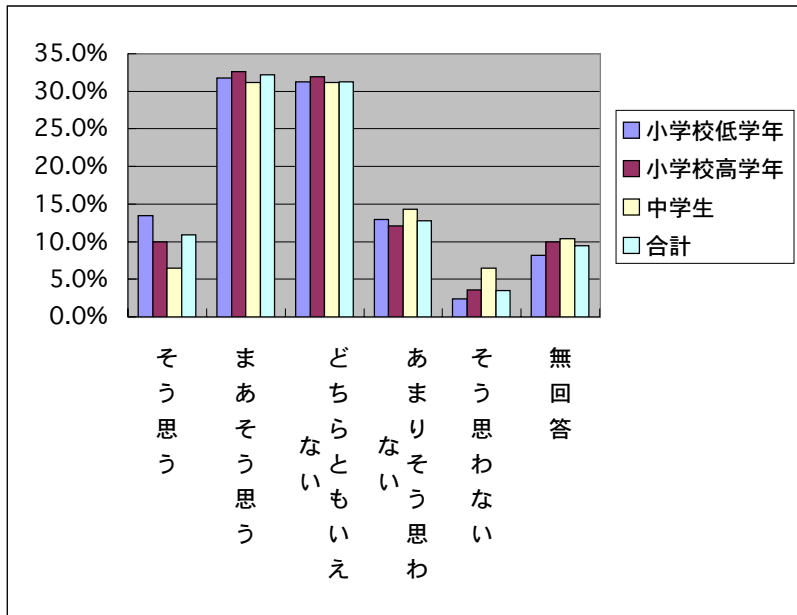
4) 回りの評価を気にせず、子どもは個性的に育てるべきだ

	小学校低学年		小学校高学年		中学生		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
そう思う	18	8.7%	23	16.3%	9	11.7%	51	11.8%
まあそう思う	69	33.2%	38	27.0%	26	33.8%	135	31.3%
どちらともいえない	76	36.5%	49	34.8%	18	23.4%	144	33.3%
あまりそう思わない	23	11.1%	16	11.3%	15	19.5%	54	12.5%
そう思わない	3	1.4%	3	2.1%	1	1.3%	7	1.6%
無回答	19	9.1%	12	8.5%	8	10.4%	41	9.5%
合計	208	100.0%	141	100.0%	77	100.0%	432	100.0%



5) 子どもの才能を伸ばすのは親の努力によることが多い

	小学校低学年		小学校高学年		中学生		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
そう思う	28	13.5%	14	9.9%	5	6.5%	47	10.9%
まあそう思う	66	31.7%	46	32.6%	24	31.2%	139	32.2%
どちらともいえない	65	31.3%	45	31.9%	24	31.2%	135	31.3%
あまりそう思わない	27	13.0%	17	12.1%	11	14.3%	55	12.7%
そう思わない	5	2.4%	5	3.5%	5	6.5%	15	3.5%
無回答	17	8.2%	14	9.9%	8	10.4%	41	9.5%
合計	208	100.0%	141	100.0%	77	100.0%	432	100.0%



# アンケート自由解答欄 キーワード別分類

		学校に対する期待
道徳		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 礼儀</li> <li>・ 人権教育</li> <li>・ ジェンダーフリー教育</li> <li>・ 善悪の判断</li> <li>・ 道徳教育</li> <li>・ 善悪の判断</li> </ul>
勉強		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎学力</li> <li>・ 補習</li> <li>・ 校外学習</li> <li>・ 達成感を感じさせる</li> <li>・ サマースクール</li> <li>・ 体力</li> </ul>
社会性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家では出来ない体験・経験・人間関係を経験させる</li> <li>・ 集団生活・社会性・ルール</li> <li>・ 他人への理解・思いやり・協調性</li> <li>・ 人間関係</li> </ul>
要望	施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平日の夕方の学校開放</li> <li>・ 休日の体育館・図書館の開放</li> </ul>
	制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏休みを減らす</li> <li>・ 少人数制（学校規模適正化）</li> <li>・ 週6日制</li> <li>・ 親子のイベント</li> <li>・ 日曜日にイベント</li> </ul>
教師の資質		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情熱のある教師</li> <li>・ 子どもに合った学習</li> <li>・ 親にはわからない子どもの個性を伸ばして</li> <li>・ 子どもが自分を見つけることのできる指導</li> <li>・ 子どもへの思いやりのある教師</li> <li>・ 子どもが興味を持つ授業</li> <li>・ 子どもが信頼し、尊敬する教師</li> <li>・ 心身共にたくましく</li> <li>・ いじめ・差別のない指導</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今のままでいい</li> <li>・ 特になし</li> <li>・ 期待してもムダ</li> </ul>

# アンケート自由解答欄 キーワード別分類

	子どもに身につけて欲しいこと	今からしていること
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ しつけ</li> <li>・ 礼儀</li> <li>・ 挨拶</li> <li>・ 社会のルール・マナー</li> <li>・ 人に迷惑をかけない</li> <li>・ 時間を守る</li> <li>・ 善悪の判断</li> <li>・ 命の尊厳</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ しつけ</li> <li>・ 礼儀</li> <li>・ マナー</li> <li>・ 基本的な生活習慣</li> <li>・ お金の大切さ</li> <li>・ 親の価値観を伝える</li> </ul>
子どもの心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 努力</li> <li>・ 勇気</li> <li>・ やる気</li> <li>・ 根性</li> <li>・ 将来どうなりたいか考えられるようにする</li> <li>・ 思い出</li> <li>・ 勉強する習慣</li> <li>・ 感動できる心</li> <li>・ 物を大切にすること</li> <li>・ 家の手伝い</li> <li>・ 子どもらしさ</li> <li>・ 笑顔</li> <li>・ 素直さ</li> <li>・ 自己受容</li> <li>・ 自信</li> <li>・ 自分の意思表示</li> <li>・ 自己表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 強い心をもたせる</li> <li>・ 前向きな心をもたせる</li> <li>・ 自立心</li> <li>・ 感受性を豊かに</li> <li>・ こどもといろいろな話し合う</li> <li>・ 自分の気持ちを表現させる</li> <li>・ 夫婦仲良くする</li> <li>・ 今を大切にする</li> <li>・ 動物を飼う</li> <li>・ 絵本・情操教育</li> <li>・ 宗教教育</li> </ul>
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思いやり</li> <li>・ 友達づきあい</li> <li>・ コミュニケーション</li> <li>・ 人のために役立つもの（労力・体力・思考力）</li> <li>・ 忍耐力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思いやり</li> <li>・ 異年齢交流</li> <li>・ 国際交流</li> <li>・ 友達を大切にする</li> <li>・ 人に迷惑をかけない</li> <li>・ 良好な人間関係</li> <li>・ 兄弟に何でも相談させる</li> <li>・ いろいろな人と接する</li> <li>・ 人に誠実に</li> </ul>



生活力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般常識</li> <li>・ 知恵・知識</li> <li>・ 広い視野</li> <li>・ 困ったときの対処法</li> <li>・ 生きるたくましさ</li> <li>・ 自立心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体力づくり</li> <li>・ 健康</li> </ul>
お金		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貯蓄</li> <li>・ 保険</li> </ul>
勉強・特技	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎学力</li> <li>・ 国語力</li> <li>・ 語学力</li> <li>・ 計算力</li> <li>・ 読み・書き・計算</li> <li>・ スポーツ</li> <li>・ サッカー</li> <li>・ バレエ</li> <li>・ ピアノ</li> <li>・ 他人に負けないもの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎学力</li> <li>・ 塾に通わせる</li> <li>・ 英語</li> <li>・ 音楽</li> <li>・ スイミング</li> <li>・ 空手</li> <li>・ 絵画</li> <li>・ スポーツ</li> <li>・ 読書</li> </ul>
体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャンプ活動</li> <li>・ 音楽に触れさせる</li> <li>・ 自分の好きなこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いろいろな体験</li> </ul>
他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特になし</li> </ul>

# アンケート自由解答欄 キーワード別分類

		気になること・不安に思うことについての自由回答
制度	指導要領	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力低下</li> <li>・ 塾に通わないといけない</li> <li>・ 学力差</li> <li>・ 学校の役割（勉強は塾任せ）</li> <li>・ 絶対評価について</li> </ul>
	学校週5日制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校行事の減少</li> <li>・ 土日にイベントをやってほしい</li> <li>・ 家で補習をするので親の負担が増えた</li> <li>・ 夏休み中の教師による指導</li> </ul>
いじめ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの悪質ないたずら</li> <li>・ 子どものモラルの低下</li> <li>・ 学校の荒れ（学級崩壊）</li> <li>・ いじめ</li> <li>・ 道德教育</li> </ul>
人間関係		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域との関わり</li> <li>・ 親同士の関係がうすい</li> <li>・ 人間関係</li> </ul>
教師の資質		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の暴力</li> <li>・ ひいき</li> <li>・ 教師の問題に対する対処の仕方</li> <li>・ 子どもの個性を大切にしたい（平均でないと、問題児扱いする）</li> </ul>
学校環境		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校規模適正化</li> <li>・ 統廃合</li> </ul>
障害児		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発達学級</li> <li>・ 子どもの将来のこと</li> <li>・ 障害児の排除</li> </ul>
家庭内		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 父親の子育て参加</li> </ul>

# 追加調査概要

1. 調査の目的：アンケート設問の語句を回答者はどのように解釈したか

2. 調査対象：アンケート配布の取りまとめ者または浜松市内の小・中学生の母親

＜小学生グループ＞ 司会 鈴木 里枝子、記録 富田 久恵、母親 7名

1、N（小 5、年中） 2、N（大学、高 3 人、小 3、小 1） 3、K（中 1、小 5、小 3、年少） 4、S（中 1、小 4、小 2） 5、H（小 3、小 1） 6、I（小 3） 7、T（小 3、小 2、年中）

＜中学生グループ＞ 司会 原田 博子、記録 神谷 真代、母親 6名

1、T（中 3、中 1、小 3） 2、H（中 2、中 1、小 2） 3、K（中 3、中 1、年中）  
4、N（大 1、高 2） 5、H（高 1、中 1） 6、T（高 1、中 3、中 1）

3. 調査日時：9月7日(土) 10:00~12:00

4. 調査場所：県居公民館

5. 調査方法：グループインタビュー

# 要約

小学生グループ・中学生グループ共通>各世代に子どもがいるあるいは経験者であるため、共通意見が多かった。

《グループインタビュー参加者》

- ・ アンケート回答者を多く紹介してくれるリーダー的存在の方に参加していただいたので、比較的インタビューに対しての回答が、いわゆる模範的であり、理想的な子育てを行っていると思われる。もっと、現実的に、今、問題を抱えている親や、問題を抱えている親のカウンセリングをしている専門家からのインタビューをすると、回答も、かなりちがってくるのではないと思われる。
- ・ 専業主婦がほとんどなので、共働きの親を対象にインタビューすると、実感、不安感も違うのではないと思われる。

## 1 「べき」論

- ・ はっきりしていい。
- ・ 理想としてはそうしたいが、現実ではそうもいかない。

## 2 「出費が増えた」の「出費」とは、具体的に何か？

- ・ 塾などの月謝
- ・ 土日に出かけることが多くなったので、外出先でお金を遣ってしまう。
- ・ 土日に出かけることが多くなったので、食事の支度をせずに外食してしまう事が増えた。
- ・ イベントが増えたので、レジャーにかかる。
- ・ 人に子どもを預けるときに、子どもにお金をもたせる。
- ・ 何を習わせるのにもお金がかかる。

## 3 「新学習指導要領」「学校週5日制」をどう評価するか？

- ・ 始まってから1学期しか終わっていないので、評価するには期間が短すぎる。

## 4 「子どもを個性的に育てる」という「個性的」とはどういうものか？

- ・ その子どもの持ついいところ
- ・ 決して子どもの悪いところや、人と違うということで、目立ってしまうことではない。
- ・ 良いものとして捉えてはいるが、協調性がほしい。これは集団の中では便利。
- ・ 子どもを認めること。子どもを分析し、見守る。

## 5 「子どもの才能を伸ばすための親の努力」とは何か？

- ・ 決して無理をしないで、できる範囲内のこと。
- ・ 子どもの成長を見守ること。(例え、先生に注意されても)
- ・ 塾の送り迎えなど、子どもに協力すること。

## 6 母親としての評価・個人としての評価・夫の評価など、どのように点数をつけたか？

- ・ 減点法である
- ・ 本当は高得点にしたいけど、つい、真中くらいの点をつけてしまった。

# まとめ

## 1 問題点のあるところ

親たちが不安に思う気持ち、問題を抱える原因として、主に次のキーワードで括る事ができるのではないかな。

- ・ 学校
- ・ 教師の資質
- ・ いじめ問題
- ・ 学級崩壊
- ・ 「新学習指導要領」や、「学校週5日制」という新しい制度
- ・ 学校・家庭・地域の役割分担と、連携
- ・ 子供同士・親子・子どもと教師などの人間関係の形成

## 2 親の心のゆらぎ

親として子どもにどうなって欲しいかがそれぞれ違うように、親としての物事の価値観が違い、価値観の違いや、求めるものの違いが、社会の中で「多様性」として表現され認められている中、親としても、「子育てや、子どもの個性が人と違っていい」と考えている。しかし、そう思う反面、「人と同じでありたい」「平均値でいて欲しい」「他と比べて突出して欲しくない」などという、同調性を求めてしまう何かがある。

「子どもの個性は認めたいけど、目立ってしまうといじめられるから目立たないで欲しい。」「子どもには、礼儀や道徳観を養って欲しいけど、実際に子どもの将来のために今からしていることは、いろいろなおけいこに通わせること」など、常に、本音と建前の狭間で親としての気持ちも揺らいでいる。

時には、情報により、ぐらぐらと揺らぎ、流されていることもある。「教科書の内容が変わった」「学校の授業では学力が低下するのでは」というメディアや親同士の情報交換の中から、新しい制度が始まってから1学期を終了する前に、「塾に通わせるようになった」人が増えている。

こうして、日々、親は、特に母親は、氾濫する情報や、親として自分がしていることに「本当にこれでいいのか」という疑問を抱えながら、揺れ動いている。

## 3 親のジレンマ

「子どもは学校に人質にとられている」という感覚は、実際に問題が発生したときに、親に強迫観念をもたらす。

子どもが教師（担任など）と上手くいっていないことに気付いても、それを教師に直接言うことは、教師に問題を突きつけることになるし、ましてや、校長等の学校の管理職や教育委員会に対しても同様のものであり、言いたくも言えないと、口をつぐんでしまう。

子どもがいじめに遭っているようだ気付いても、教師の対処法に親が納得いかない時、それに対して、親としてこうしてほしいということ言うことも出来ず、例え、学校側に言ったとしても、親が納得でき

る解決策が得られないから、問題として、親の中にジレンマが生じる。

教師とのトラブルについては、特に担任に関しては、4月のクラス換えの時に、「今年はこの先生だったからよかった」「今年はこの先生だったからはずれだった」という会話が、事実、親同士の中で交わされるという。そして、「はずれ」だった親たちはどうするのかといえば、来年のクラス換えまでの一年間を我慢するという。「一年我慢すれば……」という忍耐だけだという。

こうした問題が発生したときに、第三者の冷静で公正な判断が必要になるのではないか。

#### 4 提案

##### i) さらなる調査を

「共働きをしていて、親との同居もしていない人」「現在、子どものことで、悩みや問題を感じている人」「カウンセラーなど、専門家たち」「教師」「児童・生徒」など、立場の違うグループからのインタビューをすると、もっと違う問題が出てくるのではないか。

##### ii) 問題を解決するのは、当事者だけではない

親として、子どもをどうしたいか、子どもにどうなって欲しいか、という確たるものを持っていない親ほど、不安感が大きい。更に、今年度から施行されている新制度により、その不安感が増幅されている。それは、情報不足から来るもの、この先これでどうなるのかという漠然とした不安感、問題に立ち向かおうとしても、学校・教師・地域等との連携が上手く取れず、親だけで空回りしているもの、様々である。

これらの問題を解決するには、当事者である親（家庭）・学校・教育委員会・地域などの連携と協力が必要と思われるが、当事者でないものによる第三者機関の存在も必要とされるのではないか。この第三者機関は、心理的相談にはカウンセラー、法的相談（セクハラ、いじめ等）には弁護士などの専門家がいて、場合によっては、当事者に対して、指導・要請・改善等の力をもつものである必要もある。

# 「親の意識調査」アンケート

報告書（父親編）

2002年9月

# 調査概要

1. 調査名称：「親の意識調査」
2. 調査目的：4月から学校完全週5日制、新学習指導要領など子どもをとりまく環境が大きく変わり、あちらこちらで教育問題について語られているが、そこには実際に子どもを育てている親や家庭が抱えている不安、戸惑い、悩みなどが表に出ることはほとんどない。そこで、小中学校に通う子どもたちの親や家庭の様々な現状を知り、親のエンパワーメントのための支援と浜松市政向上委員会の政策提案につなげるための資料とする。
3. 調査対象：浜松市内とその近郊に住み、第一子が小学生または中学生を持つ父親  
150人
4. 調査期間：平成14年7月1日～平成14年7月30日
5. 調査方法：アンケート配布の取りまとめ者による個人宛て配布および回収によるアンケート調査
6. 回答者数：108人（回収率72.0%）



## 「親の意識調査」アンケート<父親編>

総回答数 108

回答者の属性

年代	合計	働いているか？			同居家族						
		働いている	働いていない	無回答	妻	妻の父	妻の母	自分の父	自分の母	その他	未記入
20代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30代	58	58	0	0	50	2	3	11	11	0	5
40代	45	43	0	2	39	2	1	5	8	0	4
50代	5	4	0	1	4	0	0	1	1	0	1
60代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	108	105	0	3	93	4	4	17	20	0	10

回答者の居住地（多い順）

富塚町	9	薬新町	1
大瀬町	7	尾張町	1
和合町	5	馬郡町	1
篠原町	4	都田町	1
佐鳴台	4	田町	1
幸町	4	天竜川町	1
竜禅寺町	3	鶴見町	1
有玉南町	3	中島町	1
有玉台	3	泉町	1
本郷町	3	西浅田町	1
飯田町	3	神原町	1
西伊場町	3	新都田町	1
志都呂町	3	植松町	1
市外	3	小豆餅町	1
高丘町	3	初生町	1
宮竹町	3	若林町	1
曳馬町	3	子安町	1
頭陀寺町	2	三和町	1
坪井町	2	根洗町	1
大平台	2	高丘東町	1
大久保町	2	向宿	1
新橋町	2	鴨江町	1
上島町	2	河輪町	1
参野町	2	下飯田町	1
葵東	2		

第一子の学年

	男	女
小学1年	24	12
小学2年	19	11
小学3年	12	7
小学4年	9	6
小学5年	11	5
小学6年	10	7
中学1年	9	3
中学2年	6	0
中学3年	6	2

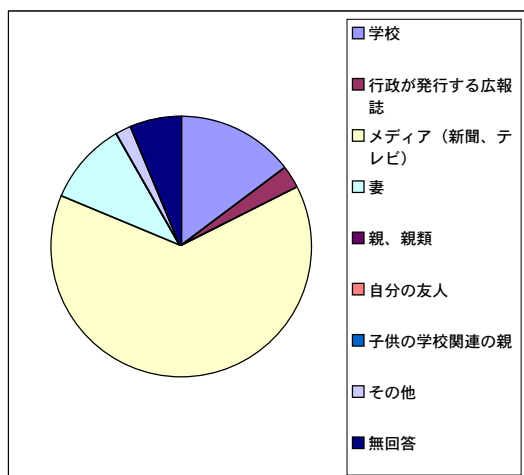
子どもの人数

1	10
2	72
3	24
4	2
5	0

◆新学習指導要領、週5日制についてお伺いします。

1) 主にどこでこれらに関する情報を知りましたか？

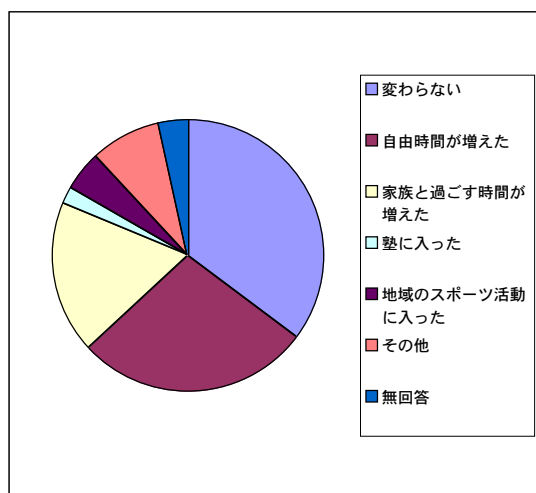
	人数	比率
学校	16	14.8%
行政が発行する	3	2.8%
メディア（新聞	69	63.9%
妻	11	10.2%
親、親類	0	0.0%
自分の友人	0	0.0%
子供の学校関連	0	0.0%
その他	2	1.9%
無回答	7	6.5%
	108	100.0%



その他の内容  
職場、仕事上

2) 新学習指導要領、週5日制になって、あなたのお子さんの生活はどのように変わりましたか？

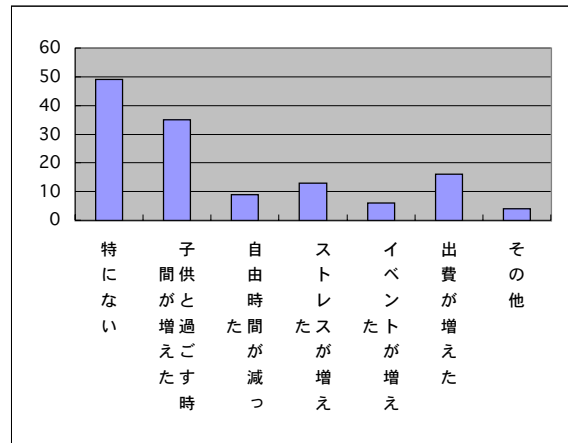
	人数	比率
変わらない	38	35.2%
自由時間が増え	30	27.8%
家族と過ごす時	20	18.5%
塾に入った	2	1.9%
地域のスポーツ	5	4.6%
その他	9	8.3%
無回答	4	3.7%
	108	100.0%



その他の内容  
実家に行く事になった(2名)  
母親の仕事（内職）を手伝うようになった  
新小学一年生なのでまだわかりません  
今年1年生なので比較しようが無い  
帰りが遅くなった。遊ぶ時間が減った  
わからない、ボーとする時間が増えた

3) あなたの生活は変わりましたか？ (複数回答)

	人数	比率
特にない	49	45.4%
子供と過ごす時	35	32.4%
自由時間が減っ	9	8.3%
ストレスが増え	13	12.0%
イベントが増え	6	5.6%
出費が増えた	16	14.8%
その他	4	3.7%



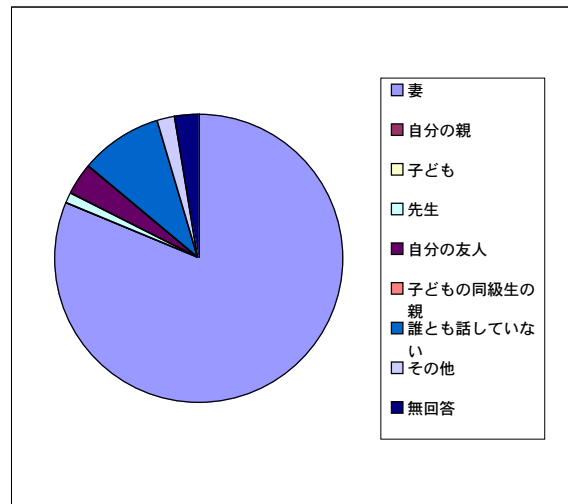
その他の内容

仕事場で面倒を見なければいけなくなった(2名)

仕事量が減りました

4) 学習指導要領、週5日制など学校や教育のことについてどなたと最もよくお話になりましたか？

	人数	比率
妻	88	81.5%
自分の親	0	0.0%
子ども	0	0.0%
先生	1	0.9%
自分の友人	4	3.7%
子どもの同級生	0	0.0%
誰とも話してい	10	9.3%
その他	2	1.9%
無回答	3	2.8%
	108	100.0%

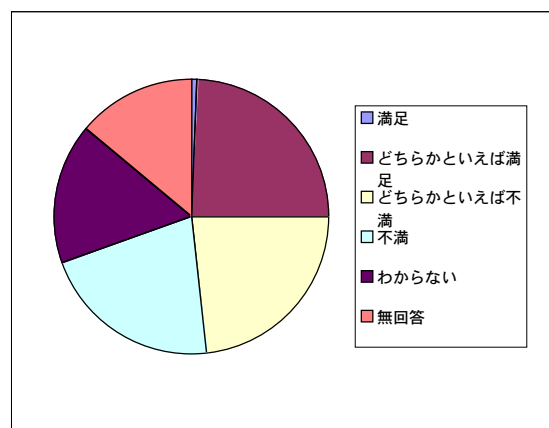


その他の内容

職場、仕事関係の人

5) 新学習指導要領、週5日制を、親としてどのように評価しますか？

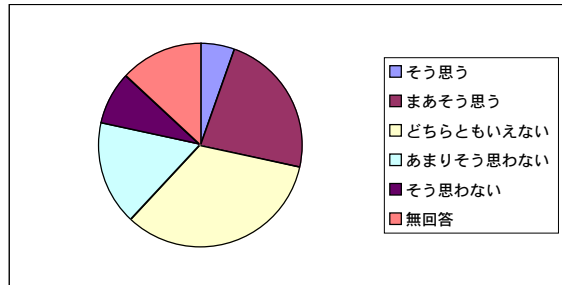
	人数	比率
満足	1	0.9%
どちらかといえ	26	24.1%
どちらかといえ	25	23.1%
不満	23	21.3%
わからない	18	16.7%
無回答	15	13.9%
	108	100.0%



◆あなたの考え方を伺います

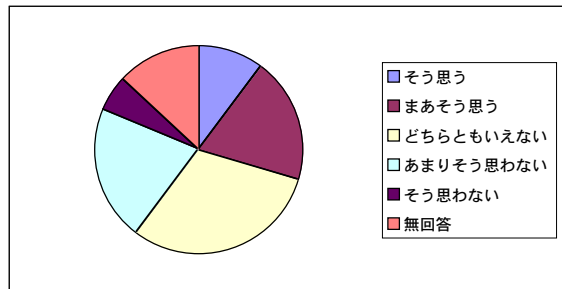
1) 子どもの教育にお金を惜しむべきではない

	人数	比率
そう思う	6	5.6%
まあそう思う	25	23.1%
どちらともいえない	36	33.3%
あまりそう思わない	18	16.7%
そう思わない	9	8.3%
無回答	14	13.0%
	108	100.0%



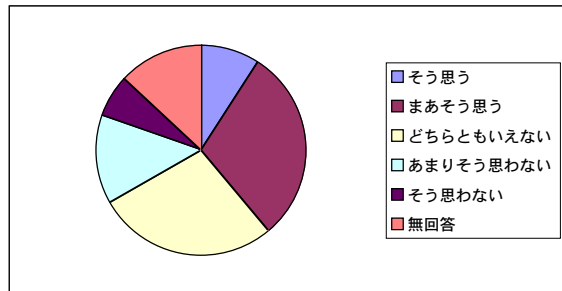
2) 子どもの才能を伸ばすためにはできるだけ多くの教育を受けさせるべきだ

	人数	比率
そう思う	11	10.2%
まあそう思う	21	19.4%
どちらともいえない	33	30.6%
あまりそう思わない	23	21.3%
そう思わない	6	5.6%
無回答	14	13.0%
	108	100.0%



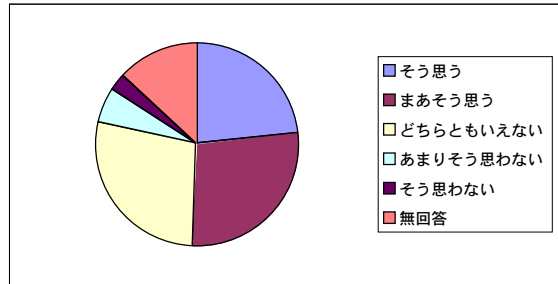
3) 子どもがいても父親はやりたいことをやるべきだ

	人数	比率
そう思う	10	9.3%
まあそう思う	32	29.6%
どちらともいえない	30	27.8%
あまりそう思わない	15	13.9%
そう思わない	7	6.5%
無回答	14	13.0%
	108	100.0%



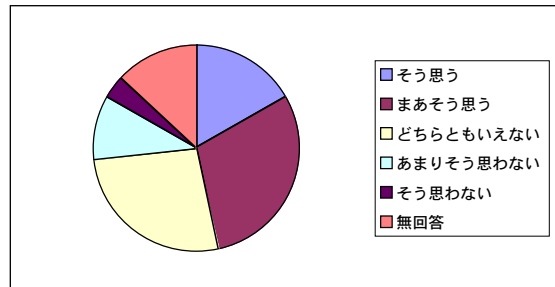
4) まわりの評価を気にせず、子どもは個性的に育てるべきだ

	人数	比率
そう思う	25	23.1%
まあそう思う	30	27.8%
どちらともいえない	30	27.8%
あまりそう思わない	6	5.6%
そう思わない	3	2.8%
無回答	14	13.0%
	108	100.0%



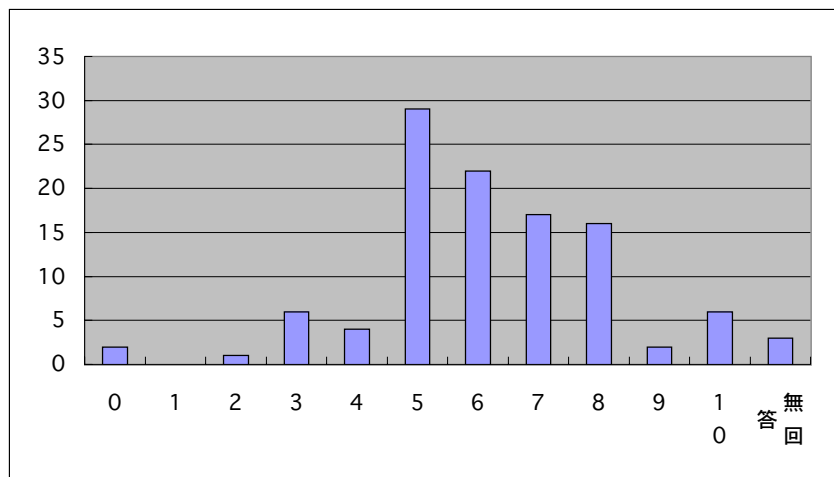
5) 子どもの才能を伸ばすのは親の努力によるところが多い

	人数	比率
そう思う	18	16.7%
まあそう思う	32	29.6%
どちらともいえない	29	26.9%
あまりそう思わない	11	10.2%
そう思わない	4	3.7%
無回答	14	13.0%
	108	100.0%



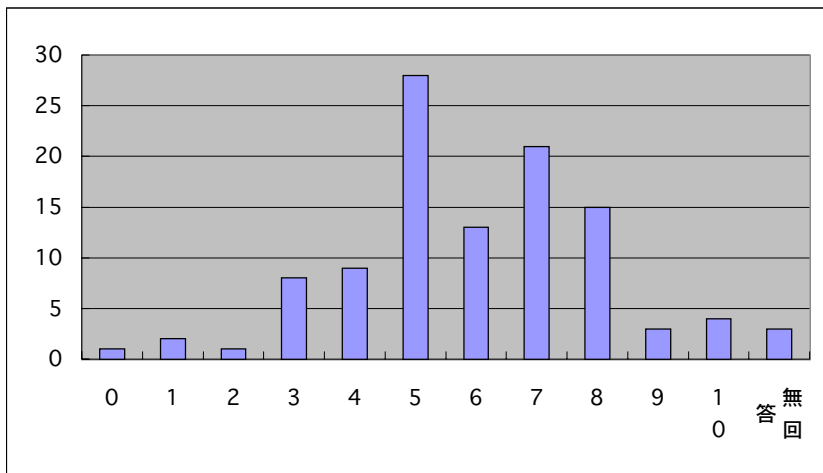
6) あなたは個人として、自分は何点だと思えますか？

	人数	比率
0	2	1.9%
1	0	0.0%
2	1	0.9%
3	6	5.6%
4	4	3.7%
5	29	26.9%
6	22	20.4%
7	17	15.7%
8	16	14.8%
9	2	1.9%
10	6	5.6%
無回答	3	2.8%
	108	100.0%



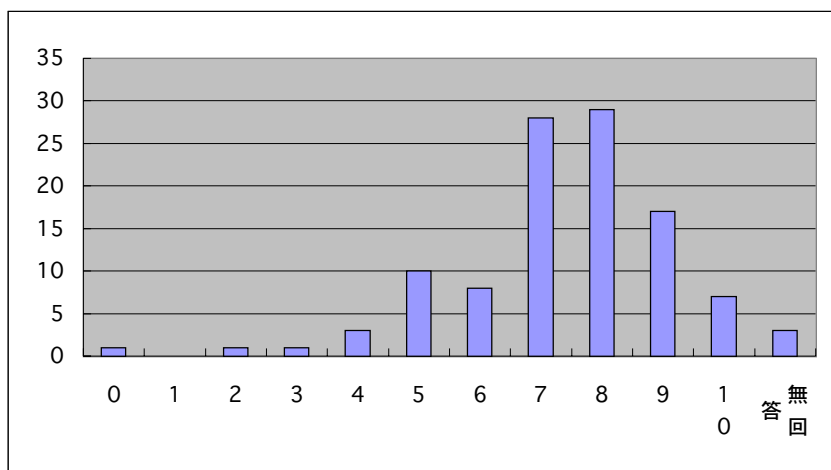
7) あなたは親として何点だと思えますか？

	人数	比率
0	1	0.9%
1	2	1.9%
2	1	0.9%
3	8	7.4%
4	9	8.3%
5	28	25.9%
6	13	12.0%
7	21	19.4%
8	15	13.9%
9	3	2.8%
10	4	3.7%
無回答	3	2.8%
	108	100.0%



8) お子さんの母親（同居の有無にかかわらず）は親として何点だと思えますか？

	人数	比率
0	1	0.9%
1	0	0.0%
2	1	0.9%
3	1	0.9%
4	3	2.8%
5	10	9.3%
6	8	7.4%
7	28	25.9%
8	29	26.9%
9	17	15.7%
10	7	6.5%
無回答	3	2.8%
	108	100.0%



個人の点数と父親としての点数

個人の点数

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	4	1	2	1	0	0	0	0
4	0	0	0	0	2	4	3	0	0	0	0
5	0	0	1	1	1	18	3	2	1	0	1
6	0	0	0	0	0	3	5	2	3	0	0
7	0	0	0	0	0	1	7	11	2	0	0
8	0	0	0	0	0	1	3	0	10	1	0
9	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4

父親の点数

父親の点数と母親の点数

父親の点数

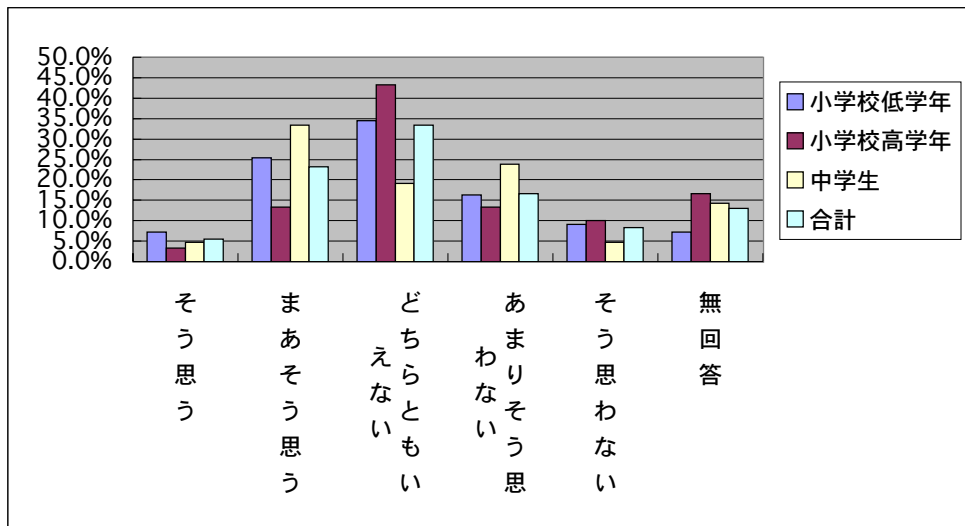
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	7	2	0	0	0	1
6	0	0	0	0	4	1	2	0	1	0	0
7	0	0	0	2	1	11	5	8	1	0	0
8	0	0	0	4	3	6	2	7	7	0	0
9	0	0	0	0	1	1	2	6	5	2	0
10	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	3

母親の点数

◆あなたの考え方を伺います

1) 子どもの教育にお金を惜しむべきではない

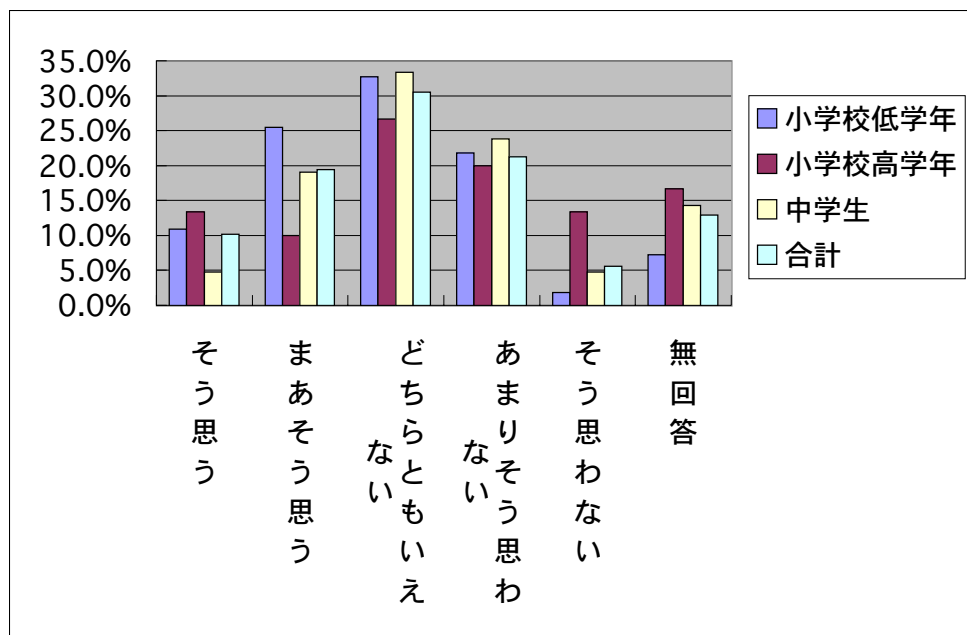
	小学校低学年		小学校高学年		中学生		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
そう思う	4	7.3%	1	3.3%	1	4.8%	6	5.6%
まあそう思う	14	25.5%	4	13.3%	7	33.3%	25	23.1%
どちらともいえ	19	34.5%	13	43.3%	4	19.0%	36	33.3%
あまりそう思わ	9	16.4%	4	13.3%	5	23.8%	18	16.7%
そう思わない	5	9.1%	3	10.0%	1	4.8%	9	8.3%
無回答	4	7.3%	5	16.7%	3	14.3%	14	13.0%
合計	55	100.0%	30	100.0%	21	100.0%	108	100.0%





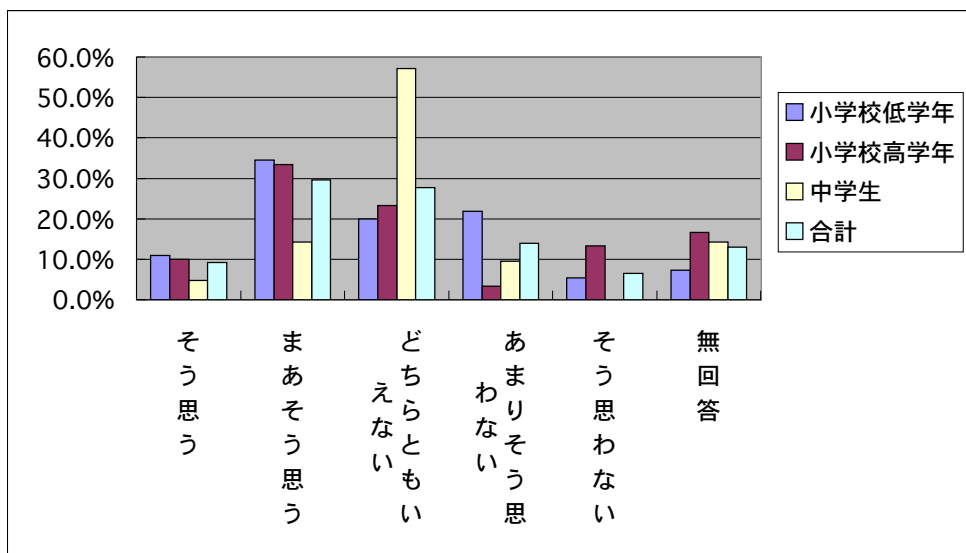
2) 子どもの才能を伸ばすためにはできるだけ多くの教育を受けさせるべきだ

	小学校低学年		小学校高学年		中学生		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
そう思う	6	10.9%	4	13.3%	1	4.8%	11	10.2%
まあそう思う	14	25.5%	3	10.0%	4	19.0%	21	19.4%
どちらともいえ	18	32.7%	8	26.7%	7	33.3%	33	30.6%
あまりそう思わ	12	21.8%	6	20.0%	5	23.8%	23	21.3%
そう思わない	1	1.8%	4	13.3%	1	4.8%	6	5.6%
無回答	4	7.3%	5	16.7%	3	14.3%	14	13.0%
合計	55	100.0%	30	100.0%	21	100.0%	108	100.0%



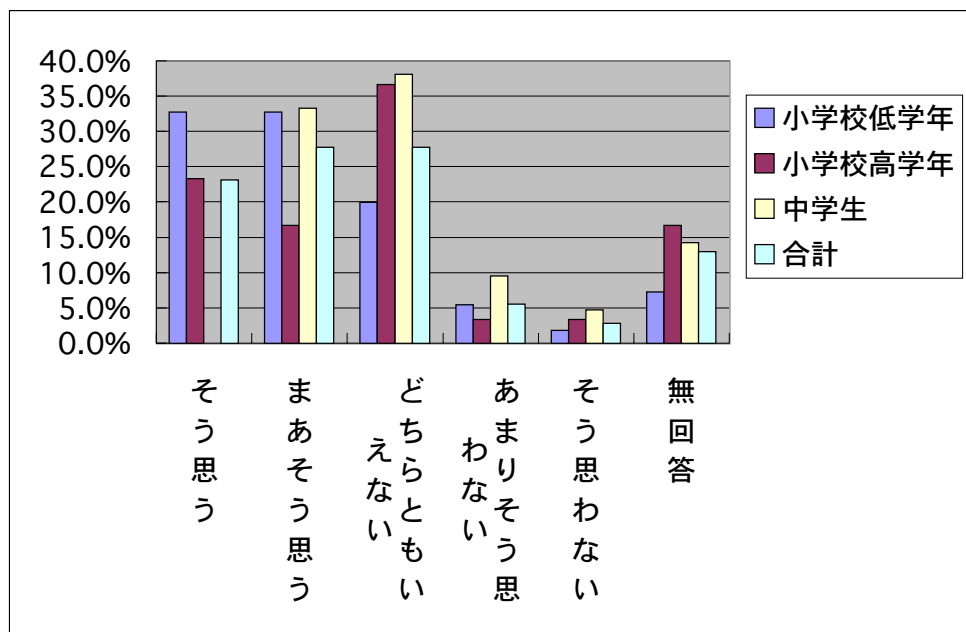
3) 子どもがいても父親はやりたいことをやるべきだ

	小学校低学年		小学校高学年		中学生		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
そう思う	6	10.9%	3	10.0%	1	4.8%	10	9.3%
まあそう思う	19	34.5%	10	33.3%	3	14.3%	32	29.6%
どちらともいえない	11	20.0%	7	23.3%	12	57.1%	30	27.8%
あまりそう思わない	12	21.8%	1	3.3%	2	9.5%	15	13.9%
そう思わない	3	5.5%	4	13.3%	0	0.0%	7	6.5%
無回答	4	7.3%	5	16.7%	3	14.3%	14	13.0%
合計	55	100.0%	30	100.0%	21	100.0%	108	100.0%



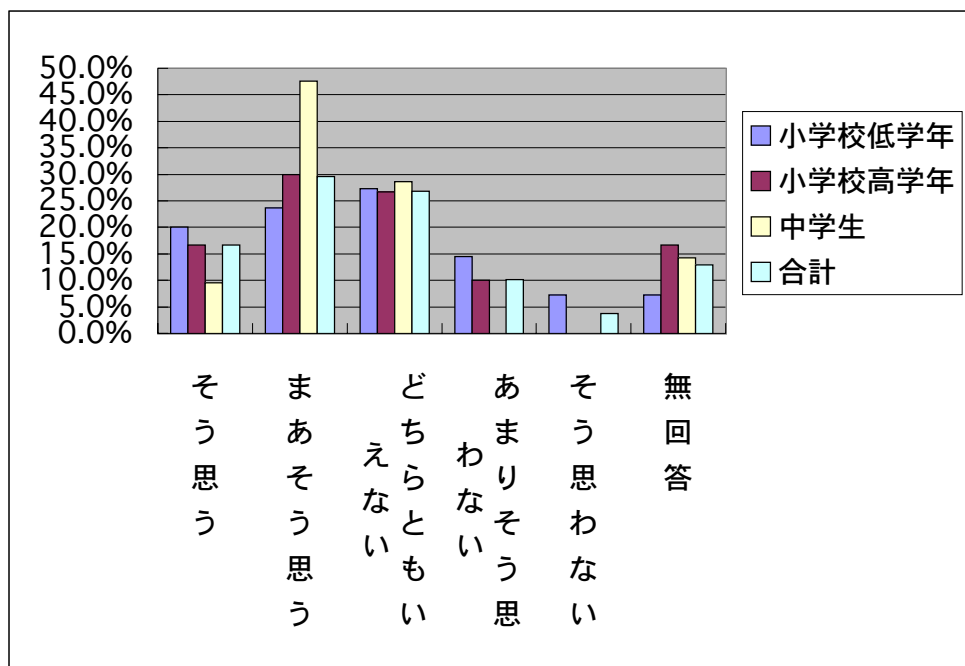
4) 回りの評価を気にせず、子どもは個性的に育てるべきだ

	小学校低学年		小学校高学年		中学生		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
そう思う	18	32.7%	7	23.3%	0	0.0%	25	23.1%
まあそう思う	18	32.7%	5	16.7%	7	33.3%	30	27.8%
どちらともいえ	11	20.0%	11	36.7%	8	38.1%	30	27.8%
あまりそう思わ	3	5.5%	1	3.3%	2	9.5%	6	5.6%
そう思わない	1	1.8%	1	3.3%	1	4.8%	3	2.8%
無回答	4	7.3%	5	16.7%	3	14.3%	14	13.0%
合計	55	100.0%	30	100.0%	21	100.0%	108	100.0%



5) 子どもの才能を伸ばすのは親の努力によるところが多い

	小学校低学年		小学校高学年		中学生		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
そう思う	11	20.0%	5	16.7%	2	9.5%	18	16.7%
まあそう思う	13	23.6%	9	30.0%	10	47.6%	32	29.6%
どちらともいえ	15	27.3%	8	26.7%	6	28.6%	29	26.9%
あまりそう思わ	8	14.5%	3	10.0%	0	0.0%	11	10.2%
そう思わない	4	7.3%	0	0.0%	0	0.0%	4	3.7%
無回答	4	7.3%	5	16.7%	3	14.3%	14	13.0%
合計	55	100.0%	30	100.0%	21	100.0%	108	100.0%



# 『おやおやプロジェクト』 父親アンケート結果から

## 1. 父親の背景

現在の父親の背景として、想像できることとして、アンケートの回答に反映しそうなものをいくつかチェックしてみたい。

- ・ リストラ危機がいつ自分のみに降りかかるかわからないので、手を抜くことなく、ぎりぎりのところまで仕事を頑張っている。
- ・ 職場の人のリストラ・人員削減により、今までの定員より少ない人数で仕事をこなしているため、個人の負担が増え、疲れている。
- ・ 残業が減り、今までに比べると定時に帰ることが多くなったものの、仕事の効率を上げているため、結構ヘトヘトになっている。
- ・ 学校週5日制になったが、休日は、休息に費やしている。
- ・ 子どもや学校の問題は、妻から事後報告を受け、大体は知っている。

## 2. 父親の生活は変わらない

学校週5日制が始まって、母親の生活は子どもと一緒にいることが多くなり、土日のどちらかは子どもをどこかに連れて行かなければ・・・、と考え行動するなど、何らかの変化があるのに対して、父親の生活は、変わらないと実感する人がほとんどであった。

これは、以前から、土日は家族と過ごしている父親が多いのか、父親は仕事で疲れているから、土日の子どもの相手をするのは、父親抜きで、父親としては変わらない生活をしているのか、疑問である。

## 3. 父親は本当に妻と話しているのか？

父親が学校週5日制について一番話をするのは、「妻」である人がほとんどであった。話し相手として「妻」であることはわかるが、肝心の妻の方は、先日のグループインタビューでもあったが、夫には「事後報告をするのみである」という感覚である。もちろん、妻の中には、一番話をする人が夫であると答えた人も多いが、同じくらい、「子どもの同級生の親」が一番と答えた人もいるので、夫の割合と比べると、かなり差がある。

子ども自身のこと、子どもの学校のこと、取り巻く環境のこと、今、子どもに降りかかっている問題のことを、父親はいったいどの段階で話に参加しているのだろうか。同じ「妻と話す」でも、問題の渦の中にあるときに話をし、問題解決に奮闘するのと、問題解決してから事後報告をされるのでは、父親の役割も違ってくるのではな

いか。また、妻の精神的・肉体的負担も違うのではないか。（ある意味、問題のあるときに、父親が直接的に関わらない方が、妻としては楽であるという意見も、グループインタビューのときに出てきたが、それでいいかどうかはその家族によるのだろうが、寂しい話である。）

#### 4. 父親としては平均点、妻は自分以上の点数

父親としての点数は、「5点」が一番多く、妻についての点数は、7～8点が一番多かった。妻の方がいい点になっているということは、「妻がいつも良くやってくれている」という意味なのか、妻の目を気にしての点数なのか。

アンケートの回答の状況として想像できることは、妻が持ち帰ったアンケートを直接記入しているというより、もしかすると、妻が質問事項を読んで、夫がそれに答え、その答えを妻が記入するという状況も想像できる。また、自分で記入したとしても、そのあとで、妻が読むということも想像した上で、記入しているのかもしれない。そうすると、これは、妻の目を気にしての点数なのかもしれない。夫の本心では・・・・・・？と考えると、想像は限りなく広がってしまう。

#### 5. 父親のやりたいことは何か

「父親は、やりたい事をやるべきだ」という設問について、「どちらともいえない」が一番多かった。果たして、父親にやりたいことがあるのか？あるとすると、何をやりたいと思っているのか？というところが気になる。

父親個人として、やりたいことが有るにも関わらず、やるべきとも、やらざるべきとも言えないのは、妻や家族への遠慮なのか。やりたいことがないのか。やりたいことを考える余裕もないほど疲れ果てているのか。

#### 6. 自由回答に距離感がある

「事件は現場で起きている！」という有名なセリフ通り、「問題は学校や家庭・地域という現場で起きている！」というのに、父親の自由解答欄の中にかかれていることは、新聞やTVで報道されているような一般論、理想論が書かれていて、現場との距離感があり、具体的でなく、生活観がなく、ともしれば、他人事のような回答が多かった。母親の自由回答には、書ききれないほどの、また、実名を挙げてまでの具体的な内容で、切羽詰った問題が書かれていた。

この差は何か？父親と母親とでは、学校、先生、そして子どもと直接的に関わる機会がいかに差が有るか？ということではないのだろうか？そして、問題は解決後に妻から知らされるという点にもこの実感の違いがあるのではないか？妻は、母親として、問題がひとつ解決する頃には、もう次の問題に頭を悩ませている。夫は父親と

して、問題が解決した頃に知らされるので、妻もその件に関しては、クールダウンした状態で話す。一方、母親は、問題の渦中にあるので、とても熱い状態でアンケートに回答しているのではないかと？

## 7. 父親の2次調査をするなら

父親について、もしも2次調査をするなら、グループインタビューをしたらどうだろうか。今回のアンケートの中からは妻の証言を元に、窺い知ることは出来たことがあったが、実際にインタビューすることで、もっとはつきりすることもあるのではないかと。

例えば、

- ・ 父親として、子どもとどれくらい接しているのか？（どのような接し方をしているのか？）
- ・ 父親として、子どもとどれくらい話をしているのか？
- ・ 父親として、学校行事にどれくらい参加しているのか？
- ・ 妻の報告だけでなく、問題について（解決後だとしても）子どもと話し合っているのか？
- ・ 父親の生活スタイルは、どんな生活をしているのか？
- ・ 子どもや子どもを取り巻く環境についての情報は、妻以外、どのように得ているのか？夫にとって、その情報の必要性はどれくらいのものなのか？

## 8. 父親としての役割と満足度

父親の役割とは何か。父親として、今の現状にどれくらい満足し、今後どのようにしていきたいのか？父親として、どんな問題意識を持っているのか？という疑問を感じるのは、自由回答の現実との距離感が何か解消されていないからなのか？

ただ、回収率がいいということから、父親として、何か一言言いたいという気持ちは伝わってくるが。

# 事例報告

## <引佐小学校 ひまわり学級>

2002年7月4日 鈴木、野澤、高木

パワフルな親たちが学校の中で面白いこととして  
いう話を聞き、早速引佐の小学校まで、見学  
した。

ひまわり学級という地域に開かれた「コミュニ  
ム」が学校内にあり、キャンプや七夕、お月見  
している。

1日に行った時は、家庭科室でナント焼肉のた  
をしていたんだ。



いるよと  
しにいつ

ティルー  
会などを

れづくり

参加している人たちが、在校生の保護者だけでない。

そしてつくりながら、子どものことや家庭のこと、地域のことなど、肩ひじはらないおしゃべりの花が咲いてい  
た。



にんにくたっぷりなので、自分のうちではなかなか作れないけど、学  
校でみんなと一緒にならでき、そのうえおいしいので、みんなに喜ばれ  
ているので、評判がいいそうだ。

やらされているんじゃなくて、自分たちのやりたいことをやっている  
ことが大事だと元学級長の高井さんが言っていた。

そうなんだよね。やらされている活動はちっとも面  
もの。

こうした活動は、学校と地域が連携・融合しあつて  
の理論を持ち、研究・実践し、子どもたちだけのた  
地域全体の、生涯教育の発展に資することを目的と  
融合活動といい、様々な地域で展開されているそう



白くない

行う教育  
めでなく、  
した学社  
だ。



## <可美小学校 多目的ルーム>

2002年9月2日 原田、鈴木

可美小のPTAを訪ねてきました。

訪問目的は、可美小校内の一角にPTAの力で、空いていた用務員室をPTAルーム（正式には多目的ルーム）に変え、インターネットを引いて、活動しているということを知ったので、じゃあ見に行こうといったのです。

でも、実際に行ったら、部屋ができたことは改革の一部の成果であって、実はもっといろいろなことをやっているんだということを知りました。

会長は昨年4月に就任以来、まずは、PTAのミッションを明確にしたこと。

「PTAは親のためにあるものだ」と明確に打ち出したことがいちばん改革にとって、重要なことだったと私は感じました。

具体的には

### ●PTA 広報の改革／

子どもの情報ではなく、親の欲しい情報、PTAの活動情報を中心に掲載する。

以前は先生の紹介は、夏休み前に発行されていた号だったが、新学期早々に先生の写真と名前、担任クラスのみを速報した。

よくPTAで聞かれることをQ&Aで紹介。

例えば、「どうして火曜日に米飯を持参しなくてはいけないのですか」という素朴な質問に答えていたりする。

### ●おやじの会の設立

（父親の参加がしやすい仕組みづくり）

### ●土曜日の参観会の実現（PTAから提言書を出し、今年の土曜日参観を実現させた）

### ●PTAが自由に使える多目的ルームの設置

廃品回収のお金を使い、用務員室を140万円で改装。

インターネット常時接続のパソコンを導入し、PTAのIT化をはかる。

日常的の情報交換はMLで、多目的ルームの予約はWeb上で。

### ●PTAの予算、決算を会長が決定できるようにした

（普通は、学校側が出してくるものらしい）

などです。

また、最後に土日に学校施設、パソコン室や家庭科室、図書室などを利用できるように、学校の開放できないかという話しになりました。

今のまま、教頭先生が管理責任者では、教頭先生の負担が大きい。行政が肩代わりするのは、コストの面と使い勝手の面で、デメリットがある。

アメリカでは、午後3時以降と土日は concil（評議会と訳せばいいのかな）の管理下になり、地域住民の自治で運営されている。

## ◆あなたやご家族のことについてお伺いします。いずれかに○、または空欄にご記入をお願いします。

- 1) あなたの年齢は？——20代、30代、40代、50代、60代
- 2) お子さんは何人いますか？（ ）人
- 3) あなたのお子さんの状況について教えてください。

子	男・女	学年	習い事（内容記入）少年団、塾、家庭教師等
第1子	男・女	小学（ ）年生 ・ 中学（ ）年生	
第2子	男・女	小学（ ）年生 ・ 中学（ ）年生	
第3子	男・女	小学（ ）年生 ・ 中学（ ）年生	
第4子	男・女	小学（ ）年生 ・ 中学（ ）年生	
第5子	男・女	小学（ ）年生 ・ 中学（ ）年生	

- 4) お住まいは？—（ ）町
- 5) 同居家族は？—夫、夫の父、夫の母、自分の父、自分の母、その他（ ）
- 6) あなたは働いていますか？ 働いている、働いていない

## ◆新学習指導要領、週5日制についてお伺いします。

相当する項目に○をつけてください。

- 1) 主にどこでこれらに関する情報を知りましたか？（いずれか一つ）
  - a) 学校、b) 行政の発行する広報誌、c) メディア（新聞、テレビ）、d) 夫、e) 親、親戚、f) 自分の友人、g) 子どもの学校関連の親 h) その他（ ）
- 2) 新学習指導要領、週5日制になって、あなたのお子さんの生活はどのように変わりましたか？（いずれか一つ）
  - a) 変わらない、b) 自由時間が増えた、c) 家族と過ごす時間が増えた、d) 塾に入った、e) 地域のスポーツ活動に入った、f) その他（ ）
- 3) あなたの生活は変わりましたか？（複数可）
  - a) 特にない、b) 子どもと過ごす時間が増えた、c) 自由時間が減った、d) ストレスが増えた、e) イベントが増えた、f) 出費が増えた、g) その他（ ）
- 4) 学習指導要領、週5日制など学校や教育のことについてどなたと最もよくお話しになりましたか？（いずれか一つ）
  - a) 夫、b) 自分の親、c) 子ども、d) 先生、e) 自分の友人、f) 子どもの同級生の親、g) 誰とも話していない h) その他（ ）
- 5) 新学習指導要領、週5日制を、親としてどのように評価しますか？（いずれか一つ）
  - a) 満足、b) どちらかといえば満足、c) どちらかといえば不満、d) 不満、e) わからない

6) あなたが学校に期待していることは何ですか？自由にお書きください。

◆あなたの考え方を伺います。

あなたの考え方に近いものを一つお答えください。

- 1) 子どもの教育にお金を惜しむべきではない。  
a) そう思う、b) まあそう思う、c) どちらともいえない、  
d) あまりそう思わない、e) そう思わない
  
- 2) 子どもの才能を伸ばすためにはできるだけ多くの教育を受けさせるべきだ。  
a) そう思う、b) まあそう思う、c) どちらともいえない、  
d) あまりそう思わない、e) そう思わない
  
- 3) 子どもがいても母親はやりたいことをやるべきだ。  
a) そう思う、b) まあそう思う、c) どちらともいえない、  
d) あまりそう思わない、e) そう思わない
  
- 4) まわりの評価を気にせず、子どもは個性的に育てるべきだ。  
a) そう思う、b) まあそう思う、c) どちらともいえない、  
d) あまりそう思わない、e) そう思わない
  
- 5) 子どもの才能を伸ばすのは親の努力によるところが多い。  
a) そう思う、b) まあそう思う、c) どちらともいえない、  
d) あまりそう思わない、e) そう思わない

6) あなたは個人として、自分は何点だと思えますか？（10点満点で）

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 点

7) あなたは親として何点だと思いますか？（10点満点で）

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 点

8) お子さんの父親（同居の有無にかかわらず）は親として何点だと思いますか？（10点満点で）

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 点

◆お子さんの将来についてあなたの考え方をお伺いします。

1) お子さんにこれだけは身に付けさせておきたいと思うことは何ですか？（一つ）

例えば、学力、あるいは様々な体験など

( )

2) お子さんの将来のために今からしていることは何ですか？

( )

◆最後に、あなたがお子さんや学校、教育について気になること、不安に思うことがあればなんでも自由にお書きください。

**お忙しいところ、調査に御協力いただき、ありがとうございました。**

このアンケートは回答後、調査協力者にお返しいただくか、もしくは下記までファックスいただけますようお願いいたします。

**浜松市政向上委員会** FAX : 053-431-1511

調査にご協力してくださるみなさまへ

2002年7月1日

この度は、アンケート調査にご協力いただき誠にありがとうございます。  
調査対象者をご確認の上、お渡し下さる際に主旨をご説明くださいますようお願いいたします。

- ◆名称：「親の意識」調査
- ◆目的：第一子が小学生、または中学生の親を対象に、実際に子どもを育てている親や家庭が抱えている  
思い、不安、戸惑い、悩みなどについて聞き、親や家庭の様々な現状を知り、政策提案につなげる。
- ◆調査の対象者：浜松市近郊に住む第一子が小・中学生の親（注）【母親用】【父親用】あり
- ◆調査期間：7月5日～7月30日
- ◆回収方法：1) 回答者が直接ファックスする（FAX /053-431-1511） または  
2) 調査協力者が回収し、届ける

届け先 ・浜松市政向上委員会事務所 浜松市半田山2丁目 5-10

TEL/FAX 053-431-1511

・アクション・シニア・タンク 鴨江3丁目 61-1 ぷらっとほーむ浜松内

TEL/053-457-3914 担当；原田

**親の意識調査アンケート**

**【父親用】**

**◆あなたやご家族のことについてお伺いします。いずれかに○、または空欄にご記入をお願いします。**

- 1) あなたの年齢は？——20代、30代、40代、50代、60代
- 2) お子さんは何人いますか？（ ）人
- 3) あなたのお子さんの状況について教えてください。

子	男・女	学年	習い事（内容記入）少年団、塾、家庭教師等
第1子	男・女	小学（ ）年生 ・ 中学（ ）年生	
第2子	男・女	小学（ ）年生 ・ 中学（ ）年生	
第3子	男・女	小学（ ）年生 ・ 中学（ ）年生	
第4子	男・女	小学（ ）年生 ・ 中学（ ）年生	
第5子	男・女	小学（ ）年生 ・ 中学（ ）年生	

- 4) お住まいは？—（ ）町
- 5) 同居家族は？—妻、妻の父、妻の母、自分の父、自分の母、その他（ ）
- 6) あなたは働いていますか？ 働いている、働いていない

**◆新学習指導要領、週5日制についてお伺いします。**

相当する項目に○をつけてください。

- 1) 主にどこでこれらに関する情報を知りましたか？（いずれか一つ）
  - a) 学校、b) 行政の発行する広報誌、c) メディア（新聞、テレビ）、d) 妻、e) 親、親戚、f) 自分の友人、g) 子どもの学校関連の親 h) その他（ ）
  
- 2) 新学習指導要領、週5日制になって、あなたのお子さんの生活はどのように変わりましたか？（いずれか一つ）
  - b) 変わらない、b) 自由時間が増えた、c) 家族と過ごす時間が増えた、d) 塾に入った、e) 地域のスポーツ活動に入った、f) その他（ ）
  
- 3) あなたの生活は変わりましたか？（複数可）
  - a) 特にない、b) 子どもと過ごす時間が増えた、c) 自由時間が減った、d) ストレスが増えた、e) イベントが増えた、f) 出費が増えた、g) その他（ ）
  
- 4) 要領、週5日制など学校や教育のことについてどなたと最もよくお話しになりましたか？（いずれか一つ）
  - b) 妻、b) 自分の親、c) 子ども、d) 先生、e) 自分の友人、f) 子どもの同級生の親、g) 誰とも話していない h) その他（ ）
  
- 5) 新学習指導要領、週5日制を、親としてどのように評価しますか？（いずれか一つ）
  - b) 満足、b) どちらかといえば満足、c) どちらかといえば不満、d) 不満、e) わからない

6) あなたが学校に期待していることは何ですか？自由にお書きください。

◆あなたの考え方を伺います。

あなたの考え方に近いものを一つお答えください。

- 1) 子どもの教育にお金を惜しむべきではない。  
a) そう思う、b) まあそう思う、c) どちらともいえない、  
d) あまりそう思わない、e) そう思わない
  
- 2) 子どもの才能を伸ばすためにはできるだけ多くの教育を受けさせるべきだ。  
a) そう思う、b) まあそう思う、c) どちらともいえない、  
d) あまりそう思わない、e) そう思わない
  
- 3) 子どもがいても父親はやりたいことをやるべきだ。  
a) そう思う、b) まあそう思う、c) どちらともいえない、  
d) あまりそう思わない、e) そう思わない
  
- 4) まわりの評価を気にせず、子どもは個性的に育てるべきだ。  
a) そう思う、b) まあそう思う、c) どちらともいえない、  
d) あまりそう思わない、e) そう思わない
  
- 5) 子どもの才能を伸ばすのは親の努力によるところが多い。  
a) そう思う、b) まあそう思う、c) どちらともいえない、  
d) あまりそう思わない、e) そう思わない

6) あなたは個人として、自分は何点だと思えますか？（10点満点で）

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 点



7) あなたは親として何点だと思いますか？（10点満点で）

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 点

8) お子さんの母親（同居の有無にかかわらず）は親として何点だと思いますか？（10点満点で）

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 点

◆お子さんの将来についてあなたの考え方を伺います。

1) 子さんにこれだけは身に付けさせておきたいと思うことは何ですか？（一つ）

例えば、学力、あるいは様々な体験など

( )

2) お子さんの将来のために今からしていることは何ですか？

( )

◆最後に、あなたがお子さんや学校、教育について気になること、不安に思うことがあればなんでも自由にお書きください。

**お忙しいところ、調査に御協力いただき、ありがとうございました。**

このアンケートは回答後、調査協力者にお返しいただくか、もしくは下記までファックスいただけますようお願いいたします。

**浜松市政向上委員会** FAX : 053-431-1511

「親の意識調査」アンケート

報告書 第一弾（母親編・父親編）

2002年9月

発行：浜松市政向上委員会

調査実施機関：NPO法人申請中 アクション・シニア・タンク

代表者：富田 久恵

プロジェクトリーダー：原田 博子

〒432-8023

浜松市鴨江3丁目61-1 ぷらっとほーむ浜松内

TEL/053-457-3914 FAX/053-457-3915

Email:info@ast.gr.jp URL:http://www.ast.gr.jp